

令和2年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査まとめ

令和2年9月値（令和2年11月1日発行）

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域の経済動向が、全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しています。事業活動の参考にいただければ幸いです。

調査データ出先

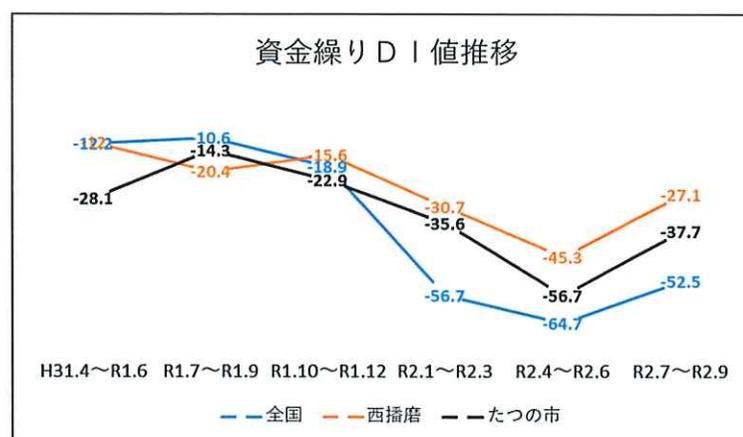
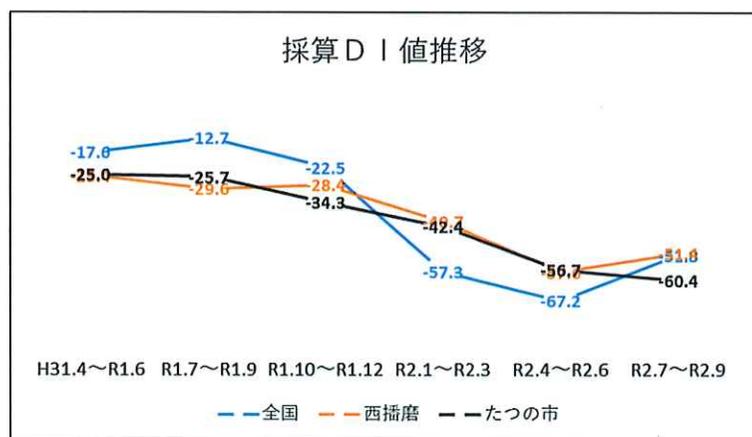
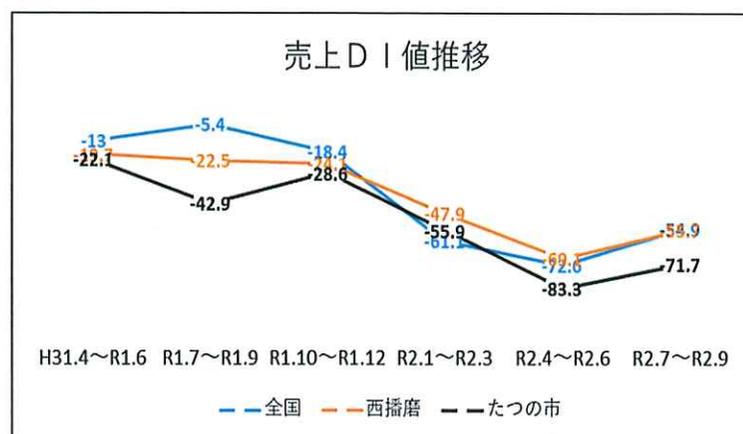
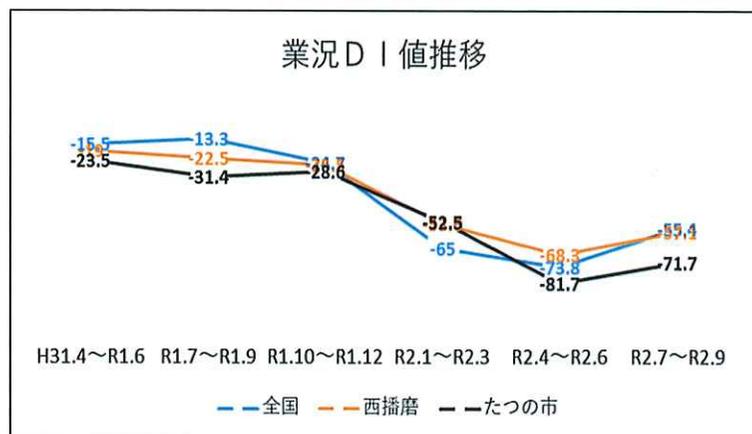
調査名（実施機関）	調査対象	調査対象期
西播磨地域景況調査（西播磨県民局）	管内中小企業者等4業種140社	令和2年7月～令和2年9月期
兵庫県の経済雇用情勢（兵庫県）	兵庫県の中小企業	令和2年7月～令和2年9月期
小規模景気動向調査（全国商工会連合会）	全国約300商工会による調査	令和2年9月期
たつの市中小企業景況調査（たつの市商工会）	管内53事業所	令和2年7月～令和2年9月期

たつの市商工会

目次

- I 産業全体の業況の推移
- II 調査範囲別景気動向
- III 業種別経済状況
 - ① 製造業
 - ② 建設業
 - ③ 小売業
 - ④ サービス業
 - ⑤ 業種別D I値比較
- IV 雇用状況
- V 総括

I 産業全体の業況の推移 <DI値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す>



<概要>

前回調査時からDI値は全体的に改善されたが、小規模企業の景況は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にある。全国、西播磨、たつの市の業況は、ほとんどの調査項目で改善されているが、世界経済が大きく減速する中で、製造業を中心に景気の先行き不透明感が強く、業況判断DIは依然低い水準にとどまっている。

Ⅱ 調査範囲別景気動向

<全国>

2020年7-9月期の全産業の業況判断DIは、(前期▲73.8→) ▲55.4(前期差18.4ポイント増)となり、前期から改善した。製造業の業況判断DIは、(前期▲81.1→) ▲65.5(前期差15.6ポイント増)となり、前期から大幅に改善した。建設業の業況判断DIは、(前期▲68.1→) ▲45.6(前期差22.5ポイント増)となり、前期から大幅に改善した。商業の業況判断DIは、(前期▲67.8→) ▲55.6(前期差12.2ポイント増)となり、前期から改善した。サービス業の業況判断DIは、(前期▲78.4→) ▲54.7(前期差23.7ポイント増)となり、前期から大幅に改善した。どの業種も前期に比べれば、10ポイント以上大きく改善されたが、コロナ禍以前までの値には回復していない業況である。

<兵庫県>

県下企業の業況判断は、足もと、先行きとも横ばいと依然として厳しい。個人消費は、持ち直しの動きが見られる。生産活動は、持ち直しの動きが続いている。輸出は下げ止まっており、設備投資は、増加計画にあるものの、下方修正の動きも見られる。有効求人倍率は、低下しており、賃金は、弱い動きとなっている。

<西播磨>

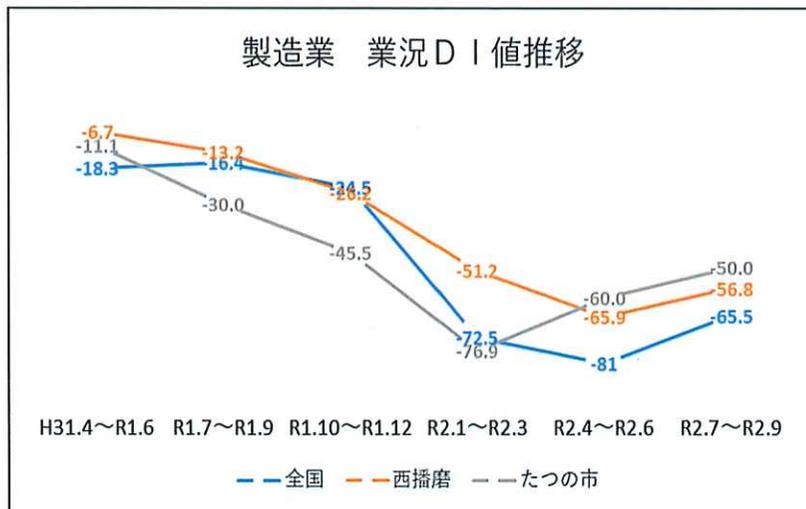
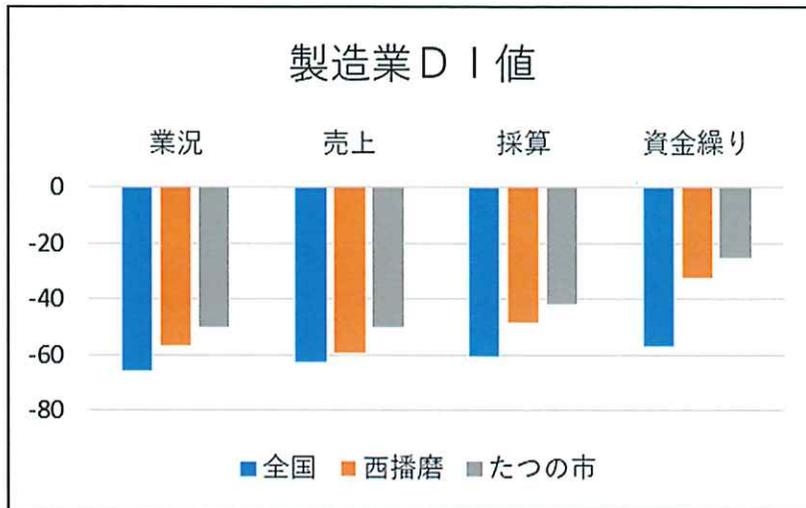
西播磨全体の業況は(前期▲68.3→) ▲57.1(前期差11.2ポイント増)と改善、売上高は(前期▲69.1→) ▲55.7(前期差13.4ポイント増)と改善、採算状況は(前期▲57.6→) ▲51.4(前期差6.2ポイント増)と改善、資金繰りは(前期▲45.3→) ▲27.1(前期差18.2ポイント増)と改善。来期は(前期▲46.0→) ▲39.3(前期差6.7ポイント増)でやや回復する見込みとなっている。全国と比較して業況、売上、採算においてはほぼ同じ数値となり、資金繰りは前期と同様に上回った。

<たつの市>

たつの市の業況は(前期▲81.7→) ▲71.7(前期差10ポイント増)と改善、売上高は(前期▲83.3→) ▲71.7(前期差11.6ポイント増)と改善、採算状況は(前期▲56.7→) ▲60.4(前期差3.7ポイント減)と悪化、資金繰りは(前期▲56.7→) ▲37.7(前期差19ポイント増)と改善。来期は(前期▲43.3→) ▲43.4(前期差0.1ポイント減)でやや悪化するとの見通しとなっている。業況、売上、資金繰りにおいて改善はみられたものの、採算、来期の見通しは悪化しており、売上の減少や人件費等の経費が圧迫しているとのコメントや第3波への不安もあり先行きが見通せない状況である。

Ⅲ 業種別経済状況

① 製造業



<全国>

製造業は、4カ月連続で全DIが5p t以上の改善となった。機械・金属関連は大手自動車メーカーの生産が回復してきたため、受注が増え、売上増加傾向にあるとの声があった。繊維関連は、一部で、新型コロナウイルス感染症のための布製マスクや医療用防護服等の売上は拡大傾向にあるが、展示会の中止や催事販売を再開しても客足が鈍い等、全体的には厳しい状況が続いている。食料品関連は、先月と同様、需要分野が内食向けか外食向けによって回復度合いに大きな差が見られるとのコメントがあった。

<兵庫県>

業況は回復傾向にあるが、前年度同期比で判断すると同水準まで至っていない。全国の景気動向と同様だが、業態によって回復度合いが異なっている。

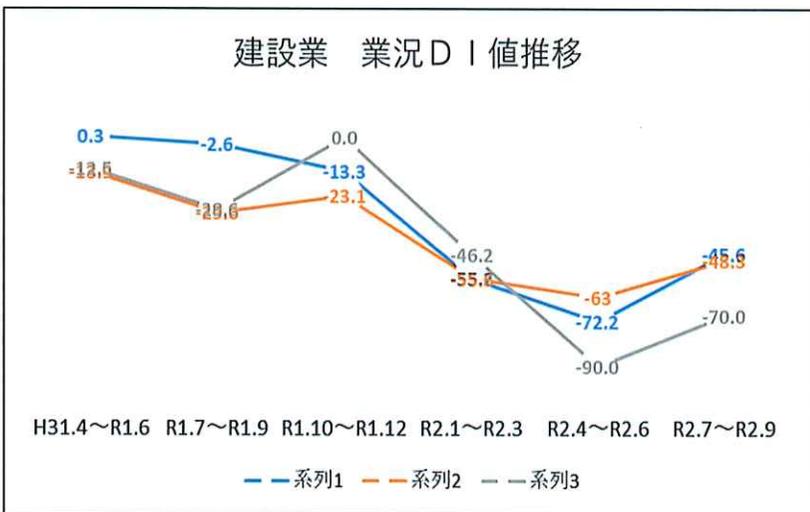
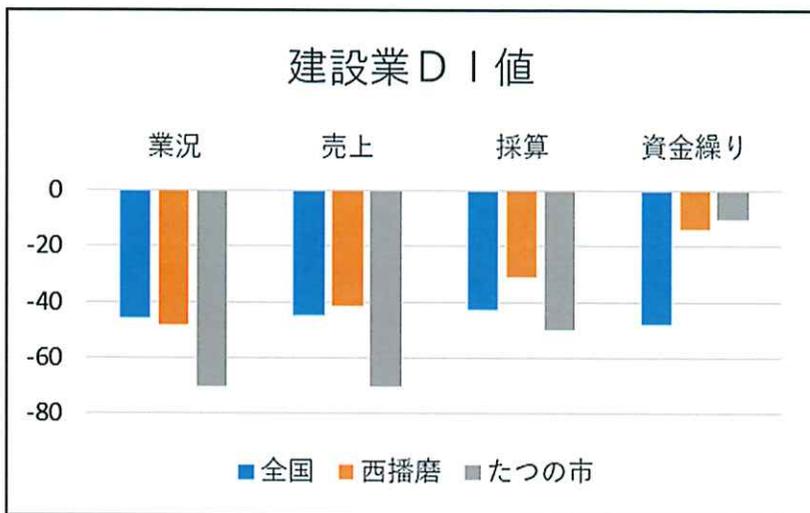
<西播磨>

回復傾向にある地域もあるものの、好調なのは個人消費向け商品で、業務用商品の売上げは減少しており、全体的には売上・収益ともに悪化している。活動自粛や消費減少の影響が及ぶ分野は厳しい状況が続き、新型コロナウイルスの影響を受けている。

<たつの市>

たつの市の業況DI値は（前期▲60.0→）▲50.0（前期差10ポイント増）と前期に引き続き回復傾向であるが、前年度同期比で判断すると同水準まで至っていない。全国、西播磨地域の景気動向と同様、業態によって回復度合いが異なっている。

② 建設業



<全国>

建設業は、4カ月連続で全DIが改善した。業況DIの改善幅は、緊急事態宣言後最大となった。公共工事については、引き続き堅調であるとの声が多く聞かれた。また、民需の住宅関連でも、新規着工やリフォーム等で延期していた工事が動きつつあり、加えて、資材不足も解消されつつあるため、復調の兆しがある。しかし、昨年ほどの工事量は確保できていない事業者も多く、また、消費者心理や投資意欲が冷え込んでいるため、今後の経済状況が不透明であることから、先行きを懸念するコメントが目立った。

<兵庫県>

建設・建築工事の一部で停滞していた受注工事が再開しており、大きな回復には至っていないが、明るい兆しが見えている。住宅関連においても、少しずつではあるが、顧客との商談・販売も動きだしてきている。

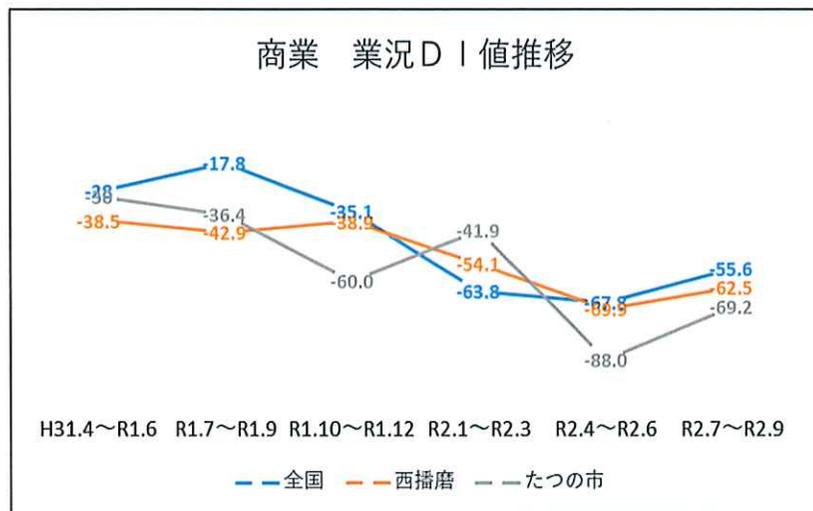
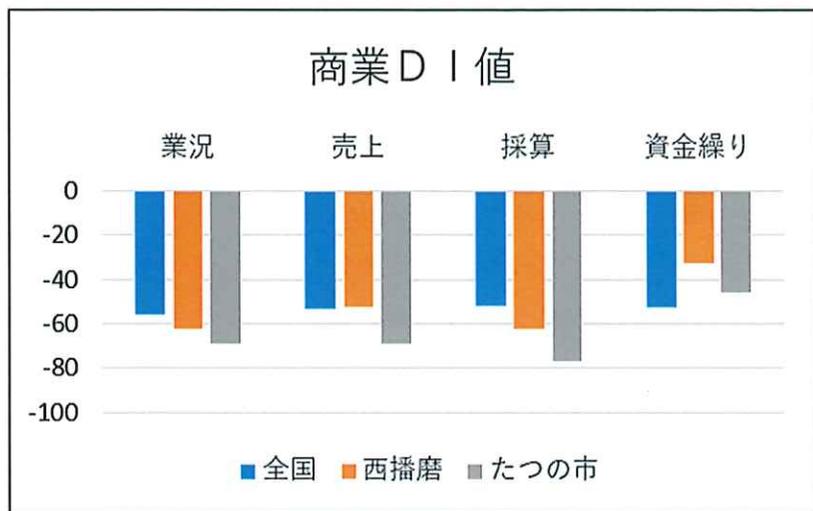
<西播磨>

前年同期と同等レベルにまで回復している地域もあるが、多くの地域では横ばい状況となっている。住宅販売では、新型コロナウイルスの影響で見学会を開催できず、商談・契約が減少している。設備投資を控える傾向が懸念されていたが、まだ影響はでていない。サプライチェーン毀損による部品等の欠品は解消されている。

<たつの市>

(前期▲90.0→) ▲70.0 (前期差20ポイント増)と大きく改善された。公共工事等の一部で停滞していた受注工事が再開しており、大きな回復には至っていないが、明るい兆しが見えている。住宅関連でも、新規着工やリフォーム等で延期していた工事が動いており、資材不足も解消されているため、復調の兆しがある。

③ 商業



<全国>

小売業は、全業種の中で唯一資金繰りDIがマイナスとなり、他のDIは小幅な改善にとどまった。耐久消費材関連は、景気刺激策の効果もあり、先月ほどではないが、好調を維持している。食料品関連は、内食需要は堅調であるが、天候不順による野菜の不作や鮮魚の不漁による価格の高騰等、伸び悩んだ。衣料品関連は、景気刺激策の効果もあり、人の動きは出てきたが、未だ外出自粛傾向は根強く、また、猛暑の影響で秋物の動きが悪く、資金繰りが悪化している。全般的には、消費意欲が鈍いとのコメントが目立った。

<兵庫県>

耐久消費財は新型コロナウイルスの影響が続いており、大手では一部持ち直しの企業もあるが、小規模事業者はいまだ厳しい状況が続いている。衣料品関連は残暑が厳しかったこともあり、例年より秋物の動きが悪い状況である。

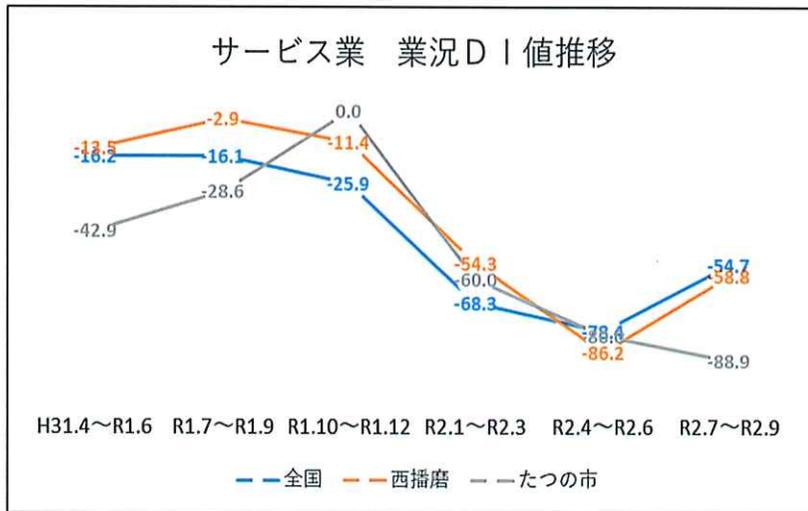
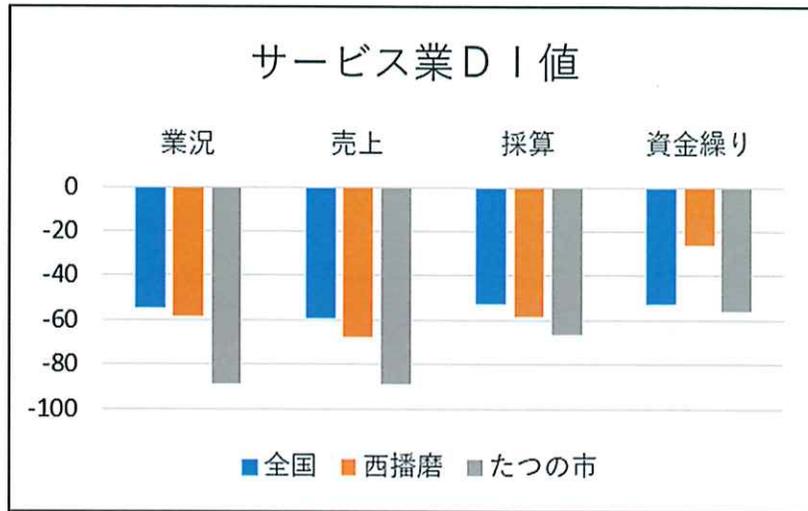
<西播磨>

外出自粛が続き、小売業も厳しい状況が続いている。県の事業再開支援や地域振興券等の利用で売上は回復したが、今後の先行きは不透明であり、依然として厳しい状況が予想される。

<たつの市>

(前期▲88.0→) ▲69.2 (前期差 18.8 ポイント増) となっており、8月中旬以降は新型コロナウイルス感染者数が減少傾向で推移したことや9月の連休の影響による需要の拡大がみられた。除菌、抗菌関連商品も好調であった。第2波の影響による外出自粛や気候の影響により、衣料品関連の売上は減少している。

④ サービス業



<全国>

サービス業は、全DIで4か月連続改善し、緊急事態宣言前の3月期の水準を超えた。理美容業については、外出への抵抗が薄れ、顧客が戻りつつあるとのコメントが目立った。宿泊業は、GoToキャンペーン等の効果により、宿泊客や予約が増加し、稼働率が上昇している。また、それに伴い宿泊関連の洗濯業も回復基調にある。一方、高級宿泊施設に需要が集中し、低価格な施設や団体客・インバウンド向けの施設は厳しい状況が続いているとの声もあった。

<兵庫県>

飲食業では、個人消費の持ち直しにより、回復傾向にある。しかし、依然として団体予約の利用が少なく、売上が平常に戻るまでには至っていない。理容業など生活関連のサービス業は、売上が回復傾向にある。

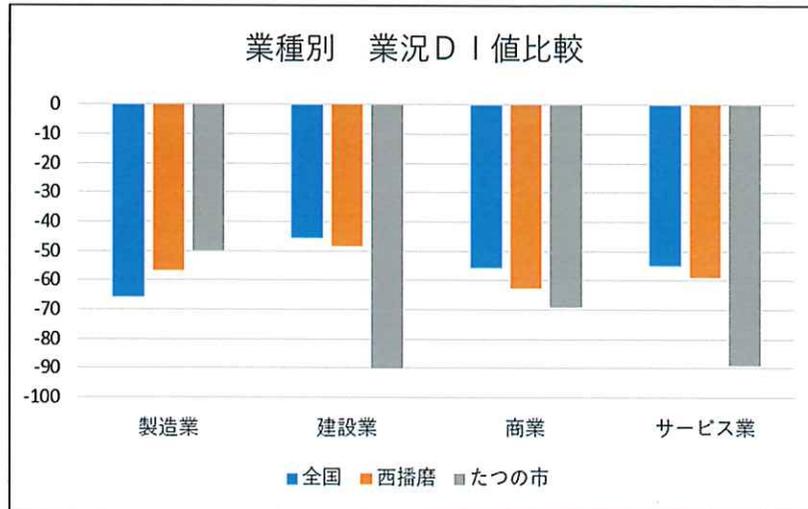
<西播磨>

飲食店では新型コロナウイルス流行前の7~8割程度まで回復している地域もあるが、少人数での利用が大半かつ、ソーシャルディスタンスの確保により収容人数を減らしているため収入減となっている。外出自粛が続き、小売業も厳しい状況が続いている。県の事業再開支援や地域振興券等の利用で売上は回復したが、今後の先行きは不透明であり、依然として厳しい状況が予想される。

<たつの市>

(前期▲80.0→)▲88.9(前期差8.9ポイント減)と悪化。飲食業では、市が発行しているグルメクーポン券の利用により、来店客数は増加した。しかし、慶弔行事や企業の飲み会など団体での利用は、減少傾向が続いており、売上回復に至っていない。

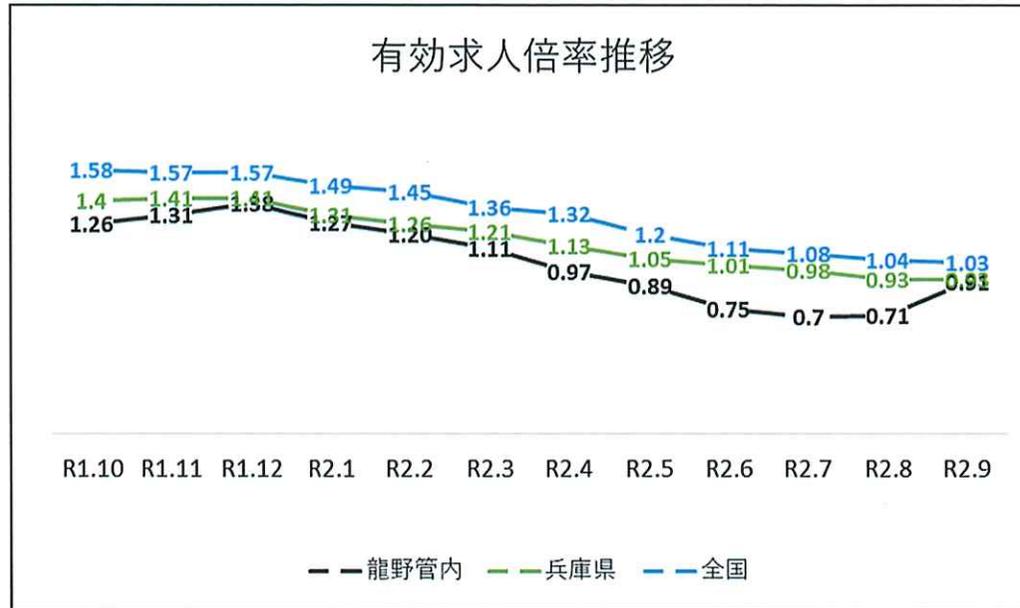
⑤ 業種別 D I 値比較



全国的には、小規模企業の業況 DI は、全業種で 4 カ月連続の改善となり、特に、回復が遅れていたサービス業については、各種景気刺激策や GoTo キャンペーンの利用で観光需要に回復の兆しが見られ、全 DI が 10pt 以上改善し、緊急事態宣言前の 3 月期を上回る水準に回復した。しかし、全業種とも水準は未だにコロナ禍以前には戻らず、回復には程遠い状況である。生活様式や企業活動が劇的な変化に直面している中、変化に対応できている事業者と対応に苦慮している事業者との間で、回復に差がでてきているとのコメントがあった。

たつの市においては、建設業、サービス業については、全国、西播磨を大きく下回りマイナス幅も大きく、不況となっている。反対に製造業については、景況感が回復傾向にある。商業については、依然マイナスが顕著であり、コロナ禍の影響や大型店への顧客集中化が進んでいる。

IV 雇用状況



令和2年9月期の有効求人倍率は、全国1.03倍、兵庫県0.93倍、龍野管内0.91倍となっている。令和2年1月期から、全国、兵庫県、龍野管内すべてにおいて減少傾向が続いていた。しかし、令和2年9月の龍野管内では、0.71倍から0.91倍へ増加傾向に転じた。兵庫労働局は、足元の雇用情勢について、「求人が増加を続けているものの、求職の超過が続いており、厳しい状況にある」として、前月の「求人増加に比べ、求職者の増加が大きく、厳しい状況にある」と同様に「厳しい状況」との情勢判断を継続した。管内業種別では、医療関係や介護等の専門サービス業や地場産業である素麺製造業での不足感が強く、今後も一旦は回復したが、新型コロナウイルスの影響により、厳しい傾向で進むと予想される

※有効求人倍率： 求人数 ÷ 求職者数 (例 仕事が20件 求人応募者10人 なら 2.0倍)

V 総括

国内景気は、業種によって回復に差がみられたものの、持ち直しの動きが表れた。今後の景気は、良化・悪化要因を抱えながら、横ばい傾向が続くと見込まれる。堅調な公共工事や連休中の外出増、緩やかに上向いた設備投資意欲などがプラス要因となった。自宅内消費の拡大やリモートワークの広がりによる住宅ニーズの高まりなどもみられた。今後の国内景気は、新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動再開のバランスが一段と重要性を増していくとみられる。新しい生活様式に対応した需要創出のほか、 外食や旅行、レジャー関連などへの支出の持ち直しが期待される。

たつの市においては、新型コロナウイルスの感染症拡大防止に配慮しつつ、経済活動の再開が進んでいる。また感染者数が減少傾向にあり、外出する人が増え、個人消費は持ち直しの傾向がみられた。飲食業など一時的な回復の兆しは見えたとはいえないが、どの業種もまだまだコロナ禍以前の状態には戻っていない。また GoTo キャンペーンによる経済対策の効果もきたされるが、今後秋から冬にかけて、感染者の増加による影響を不安視する声も多い。

以 上